

インテックス大阪(大阪国際見本市新会場)

INTEX OSAKA (International Exhibition Center)

所在地———大阪市住之江区南港北1-1-12

location———Osaka

建築主———大阪市

owner———Osaka City

設計者———大阪市都市整備局
(株)東畑建築事務所

architects———Osaka City
K.Tohata & Associates, Architects

施工者———株式会社大林組
株式会社松村組
鹿島建設株式会社
株式会社奥村組

contractors———Ohbayashi Corporation
Matsumura-Gumi Co., Ltd.
Kajima Corporation
Okumura Construction Co., Ltd.

竣工———1985年3月31日

completion date———March, 1985





インテックスプラザ Intex plaza.



スカイプラザ Sky plaza.



スカイプラザ Sky plaza.



国際会議ホール International conference hall.



鳥瞰 Bird's-eye view.

建築概要

敷地面積 128,986㎡
 建築面積 62,100㎡
 延床面積 74,918㎡
 構造/鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造
 規模/センタービル：地下1階 地上2階 5号棟：地上3階 5号棟をのぞく1～7号棟：地上1階
 仕上げ概要
 外部仕上げ インテックスプラザ/屋根：テフロンコーティングガラス繊維布貼り 外壁：妻面電解着色仕上げアルミカーテンウォール 建具：ガラス フロートガラスに調光フィルム貼

り センタービル/屋根：露出アスファルト防水 外壁：アルミ製カーテンウォール熱線反射ガラス 建具：アルミ製カーテンウォール熱線反射ガラス 展示館/屋根：折板貼り 外壁：折板貼り 建具：スチールサッシュ フッ素樹脂塗装焼付仕上げ
 内部仕上げ インテックスプラザ/床：インターロッキングブロック敷き 壁・天井：立体トラス鉄骨 ウレタンエナメル塗装仕上げ インフォメーションロビー 床：カーペット敷き 壁：大理石本磨き仕上げ 天井：ブラスターボード⑦12の上に岩綿吸音板貼り 展示室 床：アスファルト舗装 壁：折板面岩綿吹付けの上

に軽鉄地毛木セメント板貼り 天井：折板貼り
設備概要
 電気 受変電：3φ3w22kv3回線 スポットネットワーク 高圧配電：1回線の供給量最大300kVA
 空調 熱源：ガス直焚き二重効用形温水機2台 方式：単一ダクト方式 空冷ヒートポンプパッケージ方式 冷却塔：角型低騒音クロスフロー型3台 角型低騒音カウンターフロー型2台
 衛生 給水：加圧給水装置1250ℓ/min5台360ℓ/min2台
 消火 屋外消火栓 屋内消火栓 スプリンクラー 連結送水管 防火用水

選評 池原義郎 中島昌信 倉本佳亮

昭和64年に市制100年を迎えようとしている大阪市の記念事業の中心的な事業である「テクノポート大阪計画」は多くの注目を集めている。南港北部地区は、この「テクノポート大阪」計画における国際文化ゾーン、国際交易・情報・技術開発・レクリエーションの各ゾーンを含む開発が進められている地区であり、その中で審査の対象となった大阪国際見本市会場は、それらに先導して実現したものである。

埋立地の中の東西500m、南北250mの長方形の敷地に、5,000㎡～7,000㎡の多館方式の展示館を作り、複数の見本市が同時に開催でき、技術的にもデザイン的にも世界的レベルの優れた見本市会場とすることを目標として計画が進められた。単なるものの展示だけに終わらず、人・情報も展示と考えて、幅広い国際交流の空間とすることが中心的課題であったようである。巨大施設であるが、施設の維持運営のための省力化と、湾岸地域の埋立地という厳しい条件の中での工期の短縮、ローコスト化が計画の前提として求められた。その前提に対して、7つの展示館群と管理センタービルをU字状の群として配列し、その中央に、会場のシンボルと空間としての大屋根のあるインテックスプラザとオープンなスカイプラザを囲み入れている。このプラザはメインゲートによって、この会場へのメインのアクセスであるニュートラムと車からの大量の人の流入を象徴的なファサードをもって迎え入れ、

REVIEW Yoshiro Ikehara, Masanobu Nakajima and Yoshiaki Kuramoto

The Osaka Techno-port Plan, one of the most widely discussed aspects of the 1989 commemoration of the centennial of the incorporation of the city of Osaka, will include, in the region referred to as Nankō-Hokubu, an international culture zone and other zones for international development in trade, information, technology, and recreation. Work on this new International Trade Fair Center is moving ahead faster than that on any of the other parts of the overall plan. On the site, a rectangle of reclaimed land 500 meters east and west by 250 meters north and south, in a facility on a par with anything comparable in the world, will stand a multiple group of exhibition halls (5,000-7,000 square meters) making it possible to hold several fairs simultaneously. A central factor in the design and planning was providing a space for the widest possible international exchanges in which human beings and information too are considered parts of exhibitions.

The facility is vast; and in its design it was necessary to take into consideration energy reduction for each block, maintenance and management, shortening of the construction term (in spite of the

この施設の明るい透明な展示空間のイメージを形成している。インテックスプラザは、この会場のシンボルであり、ここに空間表現の主役を見事に作りあげており、半透明のテフロンキャンパスとそれを支えるヴォールト状の立体トラスの軽妙な関係は、感覚的に重力を視覚から消失させるのに成功している。高さ4.5mの独立柱上に支持されたこのヴォールトの施工の方法と精度に苦心が傾けられたようである。また、骨組膜構造としてはわが国初のものであるので、膜体取付けのため実験による実証確認を行い、それを施工に十分に反映するなど、その苦勞と成功は高く評価されよう。

展示場の使用に対する幅広い可能性のために解決した計画上の工夫にも多くの注目すべきものがある。基本モジュールの適切さ、あるいは各館の連結の方法、全体と部分のサーキュレーションの処理、あるいは展示に対する各部位の考え方等の細心な解決がこの施設の成功を支えているようである。

港を中心とした大阪市の新しい時代への構想に対し、水平にのびやかに広がりつつ、明るい透明なスケール感覚の象徴的造形は、素直さの中に個性的で存在感のあるものとして十分な成功を見ることができている。そこに企画・設計・施工の見事な一体の結果を感じ、高く評価したい。

difficulties imposed by the nature of the site as reclaimed land in a bayside region), and cost reduction.

Seven exhibition halls and an administration building form a U around the roofed Intex Plaza, a symbol of the entire complex, and the open Sky Plaza. Through the main gate, these plaza spaces provide major access and serve as a facade symbolizing the huge crowds of people who arrive by automobile and what is called the New Tram. In addition, they express the openness and transparency characteristic of the complex.

The vaulted trusses and translucent teflon canvas roofing of Intex Plaza visually negate gravity. The construction of the vault, which has free-standing posts 4.5 meters tall, was no doubt difficult and technically demanding. The covering membrane, which is the first instance of the use of a framework-membrane structure in Japan, had to be carefully experimentally tested before actual installation. The success with which these difficulties have been overcome deserves considerable praise.

